

会社名 価値開発株式会社
 代表者名 代表取締役社長 高倉 茂
 (コード番号 3010 東証第2部)
 問合せ先 取締役管理本部長 秋山 耕一
 (TEL:03-5822-3010)

第2四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2018年5月11日に公表いたしました2019年3月期第2四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日まで)の連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 予想値と実績値との差異について

2018年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異(2018年4月1日~2018年9月30日)

(金額の単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想値 (A) (2018年5月11日発表)	2,632	133	92	53	3円95銭
実績値 (B)	2,586	2	△76	△56	△4円16銭
増減額 (B-A)	△46	△131	△168	△109	—
増減率 (%)	△1.7%	△98.9%	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (2018年3月期第2四半期連結累計期間)	2,412	△43	△83	△114	△8円54銭

差異の理由

当社グループは、ホテル事業をメイン事業として行っております。売上高については、『ベストウェスタン』において、台風、地震などの自然災害の影響により空港などの利用制限が行われたことによる訪日外国人旅行客の減少や『バリュー・ザ・ホテル』において、東京オリンピック・パラリンピックに向けた首都圏の建設ラッシュに伴う人材不足などによる震災復興関連宿泊需要の低迷などが減収要因となりました。一方で、本年8月に運営を開始した新大阪ホテルが増収要因となり予想値に達しました。営業利益については、増収要因による利益面での貢献が限定的であったことと、減収要因などにより当初の計画を下回りました。経常利益については、営業利益の減少、運転資金の借入れの増加にともない支払利息が増加したことなどにより計画を下回りました。親会社株主に帰属する四半期純利益については、子会社の取得に伴い負ののれん発生益が生じましたが経常利益の減少などにより計画を下回りました。

2. 通期の業績予想について

上記のとおり第2四半期連結累計期間の予想値と実績値との間に差異が生じておりますが、通期では当初の予想値となる見込みであるため、通期の連結業績予想の変更はありません。

(注) 本資料に記載されている業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、さまざまな不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想と異なる場合がございます。

以 上